

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稻の生育状況（7月15日現在）について

発信日：平成27年7月21日

1 内容

・ キヌヒカリ

〈6月上旬植え〉

平年と比べ、草丈は同等、茎数は同等から多く、葉色値は同等である。生育は平年並みからやや早めに推移している。

〈6月中旬植え〉

平年と比べ、草丈及び葉色値は低く、生育は平年並みからやや遅れている。

・ はるみ

〈6月上旬植え〉

キヌヒカリと比べ草丈は同等、茎数はやや多い。葉色値は同等からやや低い。

〈6月中旬植え〉

キヌヒカリと比べ草丈及び葉色値は低く、茎数は少ない傾向にある。

・ さとじまん

〈6月上・中旬植え〉

平年と比べ、草丈は同等から低く、茎数は同等から少なく、葉色値は同等からやや低い。生育は平年よりやや遅れている。

2 留意事項

今後の水稻の技術指導においては、次の点に留意して実施する。

- (1) 気象庁が7月16日に発表した1ヶ月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間は平年並みか多い見込みである。
- (2) 出穂期は、7月15日現在の生育状況と今後の気象予報から判断すると、移植が6月上旬までの「キヌヒカリ」は、やや早まると予想される。6月中旬植えの「キヌヒカリ」及び6月上・中旬植えの「さとじまん」では平年並みになると予想される。
- (3) 追肥（穂肥）は、玄米の充実促進と外観品質向上のために行う。また、生育後半の栄養状態を維持し、高温障害粒の発生を抑制するために実施する。
追肥時期は幼穂の長さから判断し、施用量は水稻の生育状況や品種、水田の状況により調整を行う。
5月下旬植え「キヌヒカリ」ではすでに、追肥の施用時期を迎えているので、幼穂の長さを確認してから施用する。

参考までに、平年の追肥（穂肥）の時期と量は次のとおりである。

◎平年の追肥（穂肥）時期と量

- キヌヒカリ 時 期：出穂期の 20 日～15 日前頃【幼穂長 2～15mm 程度】
施用量：窒素成分 2 kg（10a 当たり NK 化成 C6 号では 12 kg 程度）
- はるみ 時 期：出穂期の 15 日前頃【幼穂長 15～20mm 程度】
施用量：窒素成分 2 kg（10a 当たり NK 化成 C6 号では 12 kg 程度）
- さとじまん 時 期：出穂期の 15 日～10 日前頃【幼穂長 15～70mm 程度】
施用量：窒素成分 2～3 kg（10a 当たり NK 化成 C6 号では 12～18 kg 程度）

◎施用量の判断

- ・多日照、高温の場合は多く、日照少なく、低温傾向の場合は少なくする。
- ・乾田や堆肥施用のない場合は多く、湿田や堆肥施用の場合は少なくする。
- ・堆肥等有機物を施用した場合は、原則として遅めの穂肥とする。

(4) 水管理は、穂ばらみ期（出穂期の 15 日前頃）から出穂後 10 日までの期間をもっとも水を必要とする時期であるため、水を切らさないように注意する。

(5) 病虫害防除

- ・イネツトムシ（イチモンジセセリの幼虫）

イネツトムシのふ化最盛日（県平均）を 7 月 24 日頃（県内各地域の予測ふ化最盛日は、病虫害防除部のホームページを参照）と予測している。粒剤で防除する場合は、すでに防除適期になので早急に施用する。粒剤は湛水状態で施用し、7 日間は止水する。粒剤以外の薬剤では、予測ふ化最盛日の 5 日後が防除適期である。

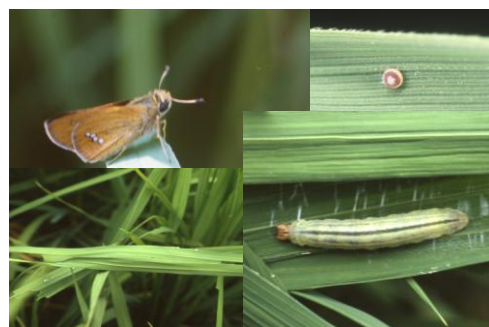


写真1 イネツトムシ
左上;成虫 右上;卵
左下;被害状況 右下;幼虫

- ・ヒメトビウンカ

縞葉枯病は、ウイルスを保毒しているヒメトビウンカに吸汁されることで発生する。よって、縞葉枯病の発生が見られる水田ではヒメトビウンカの防除を行う。



写真2 ヒメトビ
ウンカ成虫 写真3 縞葉枯病

- ・斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効である。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、畦畔雑草の除草は出穂 10 日前までに必ず終わらせる。



写真4 ホソハリカメムシ

・ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

ジャンボタニシの発生が見られる地域があるが、すでに水稻が大きくなっているため、ジャンボタニシによる食害は心配ない。拡大防止のため水田周辺や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵（卵塊）は潰す。

また、発生地域では、水田内への侵入を防止するため、水口に網を設置する。



写真5 スクミリンゴガイ

左 用水路に産みつけられた

卵塊(ピンクの物体) 右 成貝

病害虫の発生状況等については、病害虫防除部の情報等に注意する。

- (6) 農作業中の熱中症を予防するため、日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行う。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。

また、帽子を着用し、汗を発散しやすい服装を身につける。

【参考】

平年の追肥（穂肥）の目安と農業技術センターにおける平年の生育データは次のとおり。

◎農業技術センター（平塚市）における平年値（概ねの目安）

作期	品種名	追肥（穂肥） の適期	穂ばらみ期	出穂期
5 月 下 旬 植	キヌヒカリ	7月17日 ～22日頃	7月22日～ 8月6日頃	8月6日
	さとじまん	7月30日～ 8月4日頃	7月30日～ 8月14日頃	8月14日
6 月 上 旬 植	キヌヒカリ	7月20日 ～25日頃	7月25日～ 8月9日頃	8月9日
	はるみ*	7月26日頃	7月26日～ 8月10日頃	8月10日
	さとじまん	8月1日 ～6日頃	8月1日～ 8月16日頃	8月16日
6 月 中 旬 植	キヌヒカリ	7月27日～ 8月1日頃	8月1日～ 8月16日頃	8月16日
	はるみ**	8月2日頃	8月2日～ 8月17日頃	8月17日
	さとじまん	8月6日 ～11日頃	8月6日～ 8月21日頃	8月21日

（注意） 水稻の生育に関する平年は、平成17～26年のデータに基づく。

5月下旬植については、平成14～18年（5年平均）のデータに基づく。

*；平成20～24、26年のデータに基づく。**；平成21年～24年のデータに基づく。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617
TEL：0463-58-0333 内線381～384
FAX：0463-58-4254